

刊夕日三十月四



定価一冊金五銭... 発行所 常磐毎日新聞社... 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

### 青年團の本質と 其の使命

平町青年團 N 生投

米國の面積は知つて居ても我村の面積は知らず、國家の歳出入は知つて居ても我が家の收支計算が出来ない人が世には案外多いと思ひます。青年團とは何ぞや？ 解つて居さうで案外解つて居ないのが此の問題であります。私はこれに對して斯く定義を下します。

『青年團とは郷土を中心として生れたる青年相互の修養社交機關である』と。

青年團は郷土を中心とする地域團體であります。他の團體の如き同じ思想に依つて、又は同じ信仰に依つて團結したものは全然異なるのであります。しかもそれが造られたものでは無く生れたものであります。中央官廳の一片の通牒命令に依て組織されたものでは断じて無く、郷土を背景とした青年の精神的傳統を基礎として成長した團體であります。これが訓練所、補習學校等と異なる點であります。其の源は遠く鎌倉時代に溯ります。

人間には社交性があります。特に青年には孤獨は堪へられない苦痛であります。それが自然友を呼び、隣保

相親しむ機會を造る、かうして所謂若連中、或は若衆

組なるものが生れ、それが漸次組織立てられ系統立てられたものが即ち青年團であります。従つて其の主體は何處までも部落であり郷土であつて、郡市縣國家等の團體は其の統制機關に過ぎないのであります。故に劃一主義は青年團には通用しません。郷を搖籃として生れた青年團は何處迄も其の根底を郷土に置かなければなりません。

從來の日本は總べての方面に於て餘りに中央集權に傾き過ぎて居をかつたのでせうか？ 吾々はもつと地方色豊かな青年團を造つて行かなければならぬと思ひます。物質的には地方産業の開發、精神的には郷土精神の發揚——これが今後大いに強調しなければならぬと思ひます。従來青年團は單なる修養團體なりとの狭き見解より、この産業方面と餘りに分離し過ぎて居なかつたのでせうか？ 尙精神的には郷土の持つ素朴な美しさ尊さを味ひ理解し其の精神を時代的に生かして行かなければならぬ。郷土藝術の復活

——これ等も今後吾々の大いに考へなければならぬ問題であります。

次に青年團は『相互的團體である』と云ふこと、これが訓練所補習學校等と本質的に異なる點であります。

訓練所や補習學校は主として縦の關係、教師と生徒、指導者と被指導者の關係であるが、青年團は主として横の關係であります。丁度芋を桶に入れて板で掻き廻すと芋が自然に洗はれる様に、青年相互の觸れ合ひに依つて互に磨き合つて行くのが青年團であります。勿論役員はあります。併しそれは指導者ではありません。板を廻せば芋も奇麗になるが板も同時に洗はれます。今の世には高い處から「此處迄來れ」と磨く人は澤山あります。後から鞭振つて「青年よ奮起せよ！ 青年よ奮起せよ！」と叱咤して下さる方も随分あります。

(續)

### 見習生募集

十四才より十六才迄

### 高橋時計店

精幸堂號

委細面談

平町播磨小路

(キクチ自動車店向)

時は春！

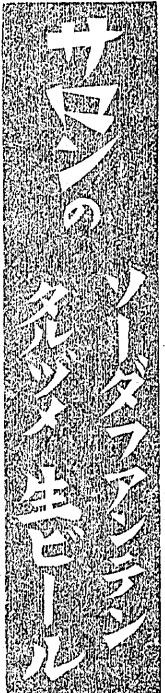
お寫し遊ばせ！

皆様の良い寫眞館

### サクラ寫眞館

平町町(驛前)

◎最新式電氣應用 晝夜撮影



### 鹽豚販賣開始

三二二三屋

平町町

### 外科

門專 X  
科線光

### 上田外科醫院

平町南町

電話一二九番

●小兒下痢一切小兒腸胃散●

堀藥局  
平町二丁目  
電話三二六番

安い！良い！

### 御裁縫用具が

澤山人荷致しました

平町丸新デパート

(福島屋靴店隣り)

### ハシモトヤ糸店

ペン  
ペン  
高級高級  
筆筆  
ペンペン

ダン... ナミキ高年筆製造元

漆黒として輝く  
ラツカークリック付  
標準六種金ペン裝  
定価四圓五十錢以上

學生用高年筆定価二圓以上

所作製木並 東京  
都上... 邦産品

特約店

平町公園前

角忠 佐々木商店

電話二三三番

### 柔道衣 剣道具 新學期特賣！

平町中 御入學の諸君を御喜び申上ます

右調度は品質確實にして斯界に定評ある優良品である

東京磐崎製柔道衣  
京都正春製剣道具  
右製品を責任を以て御奨めします

- ◆ 特 價 ◆
- 柔道衣
- 甲品平刺し 一人前 2.70
- 三ツ揃 中人用 3.40
- 中人用 大人用
- 剣道具
- 竹胴付 一人前組 11.00
- 極上品 竹刀附屬品付 1本 0.80

特約販賣店

配達敏速

電三九六番  
大勝園





# 突如、平第二校長が 内郷尋高校長に轉任

## 後任は縣視學の津田辰造氏

### ▽寢耳に水の佐藤氏

本日突如發表された本縣小學校長の異動に依ると平第二小學校長佐藤一氏は高坂の内郷尋常高等小學校長に轉じ

其の後を襲つて縣視學の津田辰造氏が來任する事になつて居る、此の異動は寢耳に水の餘りにも突然であつた爲め平第二校の職員達も驚きの眼を見張つて居るが佐藤校長は昭和二年十二月一日白河第一小學校長より榮轉し來り鏡意校務の刷新を圖つて見るべき蹟多く奏任官を以つて遇せられ殊に女子青年團の創設や其の進展には一方ならざる貢獻がある、後任

者の津田辰造氏は伊達郡大田村出身にて今年四十一歳の

働き盛 明治四十三年本縣師範學校本科第一部を卒業、梁川、保原、郡山、金透各校訓導を経て森江野伏黒兩校の校長を勤め双葉郡、安達郡視學を歴任昭和五年四月本縣視學に任命されて石城郡を担当

現在に至つた人である、因に内郷尋高校長の吉田庄太郎氏は好間尋高校へ好間校長の中村辰三郎氏は内郷第三校へ轉じ内郷第三校長の岡田圓次郎氏はハミ出しの型ちで退職となつた

## 各分團對抗の スポ ンデ 野球大會

### 來る廿四五兩日 平青体育部主催

平青年團体育部にては廿四五の兩日分團對抗野球大會を催す事となつた場所は平第一小學校及び平商業學校の球場で同体育部としては初めての試みであるが

野球熱旺盛の折柄として各分團の意氣込み鋭く散り敷く櫻花の下に我れこそ覇者を唱へんと既に猛練習を開始し腕によりかけて當日を待ち構へて居り各方面から盛

況を期待されて居る、参加申込は來る十九日迄でマルカ運動具店宛の事、規約左記の如くである

- 一、本大會に参加するチームは平青年團所屬分團の組織するものたる事
- 二、選手は各分團員にして二ヶ月以上其の分團に席を有する者に限
- 三、一分團にて幾チームを編成出場せしむるも可但し同一選手はメンバー記載以外のチームに参加

## 景氣好く持ち掛け 散々飲んで 折詰まで失禮

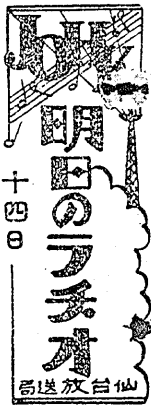
### 花見會を種の詐欺

石城郡内郷村字高坂飲食店山口屋事山木與之助方へ昨夜十時頃労働者風の若者が訪れ自分は高坂坑内の組頭だが花見會の折詰を註文に來たといふので同店では下にも置かず酒肴を整へもてなした處明日若者を寄越すからとて見本の折詰を持ち歸つたがどうも様子が怪しいので主人が電話で炭礦に照會すると左様な組頭は居ないとの返事に初て詐欺に掛つたと解り平署に届出した

## 花の賑ひ

### 平署の取締

花の平町は博覽會、縣社祭典、諸會合、山神祭その他催しものがあり十五日からは全町公園を通じて賑ひの渦を巻くのでこれに依る各種の犯罪を豫想し本日午前十時から平署では司法主任刑事部長監督部長會合徹底的取締方法を協議打合せをなした



明日のラジオ

今晩も明も南東の風晴れたり曇つたり

### 今晩の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話「コンクリート」大石義郎  
後七、三〇 講演「國民教育の完成に對する我等の奉仕」伯爵二荒芳徳  
後八、〇〇 室内樂「動物の謝肉祭」日響アンサンブル

### 明日の部

前九、一〇 料理献立「ポールドキーン」朝倉長吉  
後八、三〇 掛合義太夫  
一新版歌祭文「豊竹團司外」  
後九、四〇 奉天より  
後九、四〇 全國ニュース  
氣象通報 番組豫告

## 町田嘉章 兩氏共編

### 平小唄の 三味線 文化譜

#### 譜本一千部本社へ寄贈 料理店からお客へ

平小唄の作曲者たる町田嘉章氏は三絃界の名手杵屋彌七氏と共に『平小唄』の三味線譜を編み東京赤坂見附外三味線文化譜樂會より出版したので同樂會より本社宛一千部の寄贈あつた爲め本社は是れを平料理組合及び藝妓屋組合に贈呈したが右譜本にはハローモニカ譜も附記しあり二折袖珍の美本で各料理店が登樓客の望みに委せて無代進呈する筈

## けふの欠席兒童

平町各小學校に於ける本十三日の欠席兒童數は第一校が五十三名、第二校三十七名、第三校二十六名で原因は今盛んに流行して居る感冒の爲めが多いと

## 平窪消防事業

石城郡平窪村消防組では去る十日午後一時より小學校に幹

## 失火罪

### 罰金言渡

平町字播磨小路三十三番地古物商室井徳治(六)は去月十二日午後八時半頃失火し自宅及梶山丑藏外一名宅を焼失せしめ本日平區裁判所

## 謹告

本月十八日縣社子鉞倉神社大祭當日ハ例年ノ通り謹而休業仕候  
但日本銀行並ニ縣金庫事務ハ平常ノ通り取扱申候

## 平町銀行組合

## 博覽會便り

東京九段の遊就館では昭和産業博覽會に上海事變にて函獲せる左記の支那側兵器を發送せる旨博覽會事務所に通知あり一層の人氣を呼ぶであらう  
小銃、學生服、水筒、帽子、鐵兜、輕機關銃、十字鉞

## 成績不良注意

平商業學校にて來る十九日より二十二日迄の閉學年成績不良生徒の保護者を呼んで各々注意を與へると

部會を招集協議の結果本日午後一時より消防全員と少年消防隊員の規律訓練並に機械の検査を行つたが尚本年度事業としては村道の改修火見櫓の改築等を行ふ事になつた



# 幕末剣士

【藝轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

【第廿六席】

神影流の達人秋山要介

氣狂と間違ひる  
秋山要介は武州秩父の小川に出て來ましたが、今は町です、そこに小紅屋といふ旅宿がある、そこに入つた女中「入らつしやいませ、お早にお着きまででございます」

要「四五日逗留いたす」

女中「有難うございます」

要介は足を洗ひ、女中の案内で二階座敷に通る

女中「お疲れさまでございませう」

要「イヤ別段疲勞も覺えぬが、江戸に近い土地でありながら、此邊は大分淋しいナ」

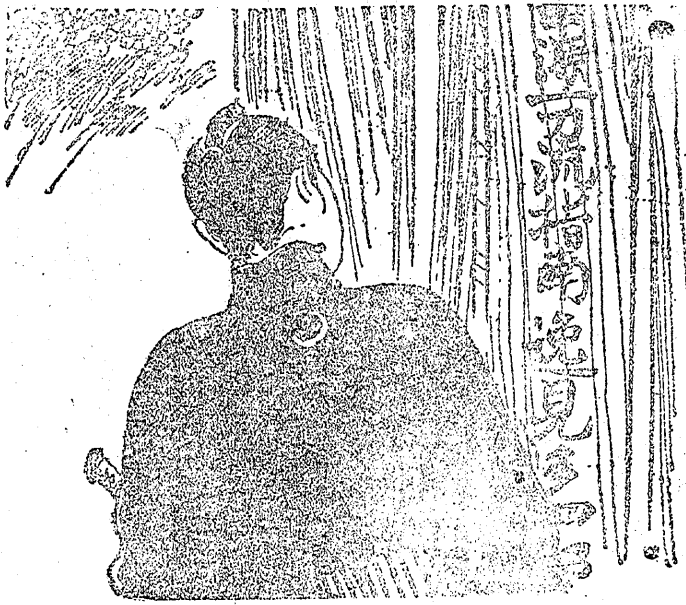
女中「それは此處は田舎でございます、然し人氣は宜しうございます」

要「さうだらう、何ぞ肴を見つゝ酒を持つて參れ、此方へ來る時に飯屋で晝食をしたが、さつぱりした物を持つて來いと申したら山鳥賊の三杯酢が宜からうと申したが、山の中に鳥賊のあるは不思議とは存じ

たが、それが宜からうと申すと主人が持つて參つた上それを食べたが不思議な味がする、一體この山鳥賊の正體は何かと聞くと蝸牛だ

さうだ、あれは火傷の藥になるとは聞いたが三杯酢で酒の肴にならうとは思はなかつた、山鳥賊は斷るぞ、普通の人間が用ひる食物を持つて來い」

女中「旦那は輕な事ばかり仰しやいます、山の中で



はございませうが小川は良い所でございます、江戸に大阪に京都に小川を合せまして日本の四ヶ津と申します」

要「馬鹿な事を云ふナ、山の中にある町だ、これは熊の巢であらう」

女中「只今お酒を持つて參ります」  
蝸牛の三杯酢、玉子焼、豆腐の吸物酒を添へて持つて來た女中が赤黒い松の古木のやうな手でお酌をする

要「コレ、これは貴様に小遣ひとして遣はす」

女中「有難うございます、アラマア二米でございますね」

要「貴様は金を見た事は無いが、それとも二米だ、有難いか、これは茶代として遣はす」

と二歩出した、女中はそれを待つて下に行く、間もなく小紋の羽織を被て其へ

さ聲のやうな名だ」  
甚「これは恐れ入ります、御愛顧に預りまして有難い事でございます、旦那様は三峰に御參詣でございますか、御參詣ならば御案内もいたします」

要「イヤ何れ三峰へも參詣いたすが、訪う者があつて參つた、當地に逸見多四郎と申す者が居るさうだが聞く處によると大分竹刀をひねくるさうだ」

主人これを聞くと、澁面作り  
甚「逸見先生は日本一の名物でございます、絹と米に續いては逸見先生でございます、御先祖様は逸見の冠者と申しまして、昔は此土地の御領主様でございます、劍術のお流儀は田源一刀流でございます、大分遠方から稽古にお出になりましてお道場は毎日繁昌いたして居ります」

要「この宿外れの小澤と申す所にございませう」  
要「さうか、それでは明日其の道場に參ることいたします」  
甚「逸見先生の許へお出でになる、あなたは矢張劍術の御修業者で御座いますか」  
要「イヤもう俺は修行済みだよ、承るに逸見は日本一の名人だとの事だ、其日本一を打込んで株を俺が取上げるつもりだ」  
甚「左様でございますか、シテ見ればあなたも御名人でございますナ、先づ御ゆるりと御休息遊ばせ」  
主人は引退る、要介は一升あまりの酒を飲んで其夜は寝た。翌朝起き出して食事も終り暫時休息してそれから逸見の道場に出て來た、住居の間置は空濠で左の橋が架かつてゐる、此を渡るに築地塀の南に門がある、それを入り右の方に切れると道場但し門の柱に田源一刀流指南逸見多四郎とした檜の大看板が出てゐる、要介は道場を見て居たが纏て玄關にかゝり、  
要「頼む」  
と案内を乞ふ  
侍「ドレ」  
と答へて其處へ出て來た若侍  
要「見多四郎殿の道場はこれか」  
侍「左様、どういふ用事があつてお出でになつたか」  
要「拙者は秋山要介と申す者、見殿が御在ならば一と手お立ち合いたしたい」  
侍「修行者でございますか」  
要「黙れ、修行者ではない拙者は日本一の名人だ」  
弟子がこれを聞いて氣狂ひかと思つた。

入つて來たは五十二三になる男  
○「わたくしが小紅屋甚次郎兵衛でございます」  
要「小紅屋何と申す」  
甚「甚次郎兵衛と申します」  
要「ちんちろ兵衛松虫の啼

でございませう、先づ御ゆるりと御休息遊ばせ」  
主人は引退る、要介は一升あまりの酒を飲んで其夜は寝た。翌朝起き出して食事も終り暫時休息してそれから逸見の道場に出て來た、住居の間置は空濠で左の橋が架かつてゐる、此を渡るに築地塀の南に門がある、それを入り右の方に切れると道場但し門の柱に田源一刀流指南逸見多四郎とした檜の大看板が出てゐる、要介は道場を見て居たが纏て玄關にかゝり、  
要「頼む」  
と案内を乞ふ  
侍「ドレ」  
と答へて其處へ出て來た若侍  
要「見多四郎殿の道場はこれか」  
侍「左様、どういふ用事があつてお出でになつたか」  
要「拙者は秋山要介と申す者、見殿が御在ならば一と手お立ち合いたしたい」  
侍「修行者でございますか」  
要「黙れ、修行者ではない拙者は日本一の名人だ」  
弟子がこれを聞いて氣狂ひかと思つた。

でございませう、先づ御ゆるりと御休息遊ばせ」  
主人は引退る、要介は一升あまりの酒を飲んで其夜は寝た。翌朝起き出して食事も終り暫時休息してそれから逸見の道場に出て來た、住居の間置は空濠で左の橋が架かつてゐる、此を渡るに築地塀の南に門がある、それを入り右の方に切れると道場但し門の柱に田源一刀流指南逸見多四郎とした檜の大看板が出てゐる、要介は道場を見て居たが纏て玄關にかゝり、  
要「頼む」  
と案内を乞ふ  
侍「ドレ」  
と答へて其處へ出て來た若侍  
要「見多四郎殿の道場はこれか」  
侍「左様、どういふ用事があつてお出でになつたか」  
要「拙者は秋山要介と申す者、見殿が御在ならば一と手お立ち合いたしたい」  
侍「修行者でございますか」  
要「黙れ、修行者ではない拙者は日本一の名人だ」  
弟子がこれを聞いて氣狂ひかと思つた。

でございませう、先づ御ゆるりと御休息遊ばせ」  
主人は引退る、要介は一升あまりの酒を飲んで其夜は寝た。翌朝起き出して食事も終り暫時休息してそれから逸見の道場に出て來た、住居の間置は空濠で左の橋が架かつてゐる、此を渡るに築地塀の南に門がある、それを入り右の方に切れると道場但し門の柱に田源一刀流指南逸見多四郎とした檜の大看板が出てゐる、要介は道場を見て居たが纏て玄關にかゝり、  
要「頼む」  
と案内を乞ふ  
侍「ドレ」  
と答へて其處へ出て來た若侍  
要「見多四郎殿の道場はこれか」  
侍「左様、どういふ用事があつてお出でになつたか」  
要「拙者は秋山要介と申す者、見殿が御在ならば一と手お立ち合いたしたい」  
侍「修行者でございますか」  
要「黙れ、修行者ではない拙者は日本一の名人だ」  
弟子がこれを聞いて氣狂ひかと思つた。

看護婦急派の求めに應じます  
平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番

旭硝子株式会社製品  
板ガラス  
製造 硝子食器  
賣販 菓子壘  
其他 各種  
松崎硝子製作所  
平町新川町(電話一四二番)  
支工場 仙臺市榮町 電話五九七番

御見のお披露  
最大 魚折詰 二十錢より  
勉強 壽司折詰 二十錢より  
本年の折箱は特に最新式の文化折箱を使用致します  
多敷は特に御相談に應じます  
平町字二丁目  
せ印 魚清食堂折詰部  
電話六三三番

魚清食堂部改築御披露  
◇階上新築食堂は皆々様を御待ちしてゐます  
何卒御立寄下さい  
例年の通り

平屋洋品店  
平町田町通電話六五六番

旭硝子株式会社製品  
板ガラス  
製造 硝子食器  
賣販 菓子壘  
其他 各種  
松崎硝子製作所  
平町新川町(電話一四二番)  
支工場 仙臺市榮町 電話五九七番

御見のお披露  
最大 魚折詰 二十錢より  
勉強 壽司折詰 二十錢より  
本年の折箱は特に最新式の文化折箱を使用致します  
多敷は特に御相談に應じます  
平町字二丁目  
せ印 魚清食堂折詰部  
電話六三三番